

下々戸主意比止正年〇丁卅〇〇六〇中略

戸主妹乎賣正年〇五〇十〇中略

中政戸六人部儒戸口廿二〇註

下々戸主儻正年〇丁卅〇〇六〇中略

戸主妹豐賣正年〇五〇十〇中略

〔東大寺正倉院文書 二十二〕御野國味峰間郡春部里太寶貳年戸籍〇中略

上政戸國造族皆麻呂戸口卅六〇註

下中戸主阿佐麻呂正年〇五〇十〇中略

戸主妹安賣正年〇六〇十〇

○按ズルニ、右ノ戸主妹乎賣豐賣安賣等皆戸主ノ妹トアレド、其年齡戸主ヨリ長ゼリ、

〔大和物語〕下むかし在中將のみむすこ在次君といふがめなる人なん有ける、女は山蔭の中納言のみひめにて、五條のごとなんいひける、かのさいじぎみのいもうとの、伊勢のかみのめにてい

ますがりけるがもとにいきて、〇下略

〔古事記〕上於是天津日高日子番能邇々藝命、於笠沙御前遇麗美人、〇中略故爾其姉者因甚凶醜、見畏

而返送、唯留其弟、木花之佐久夜毘賣、以一宿爲婚、

〔古事記傳 十六〕弟は淤登と訓べし、伊呂、杼と訓て宜きもあり、和名抄に、爾雅云、男子後生爲弟、和名

於止宇止登とあれども、淤登は男女にわたりて云稱なり、又もとはたゞ淤登と云りしを、淤登宇

は後の人と添て云、また爾雅云、女子後生爲妹、和名伊毛宇止とあれども、古は姉に對へて、後に生

れたるをば、女をも弟と云て妹とはいはず、記中の例皆然り、心を著て見べし、中昔までも然に

ぞありける後に生れたる女子を妹と云は、男兄には對へ云稱なり、姉に對へては弟とのみ云て、